

第9回 社会と情報に関するシンポジウム 1999

札幌学院大学社会情報学部

研究委員会 秋山雅彦

札幌学院大学社会情報学部の創設を期として始められた「社会と情報に関するシンポジウム」は、今年で9回目を数えることになった。本シンポジウムは夏休み直前の年中行事として定着し、今年も7月31日（土）と30日（日）の両日にわたってG館5階の特別会議室で開催された。

現在、コンピュータを介した社会のネットワーク化が急速に進むなか、社会インフラとしてのネットワークシステムのセキュリティ確保に対する関心がとみに高まってきている。本シンポジウムでは、暗号理論・情報セキュリティ・ネットワーク管理・筆者認識等のキーワードを切り口として、情報化社会に付随する問題点の明確化とそれらの解決法を工学的な視点から探ることを目的に企画された。

最初の講演者はNTTの主幹研究員であり、また電気通信大学の客員教授でもある森田光氏で、同氏は大学卒業後一貫して情報セキュリティの分野で活躍され、この分野において日本を代表する研究者の一人である。本講演では、暗号アルゴリズム・セキュリティプロトコル・標準化動向等、多くの視点から情報セキュリティに関する動向についてお話しいただいた。

つづいては、大阪市立大学学術情報総合センター教授の中野秀男氏に大学・企業におけるセキュリティ管理の実際をお話しいただいた。コンピュータ相互のネットワーク化の進展にともなう、システムのセキュリティを確保する技術の開発が急務となっている現在、組織におけるネットワーク管理の実際について、特に大学の場合に焦点をしばって、同氏の経験を踏まえてお話しいただいた。

3人目の名古屋市立大学芸術工学部教授の吉村ミツ氏は、一貫してパターン認識の研究をされ、文字認識や筆者認識の研究を中心に据えられておられた。そして最近では、名古屋市立大学のmotion captureシステムを用いた動作の時系列データ解析にも興味を拓けられていると伺っている。今回の講演は「筆者認識技術の現状」というテーマで、文字に関する構造情報や濃度情報を用いて筆者認識をする方法と、その現状および課題についてお話しいただいた。

以上の3つの講演をめぐって講演者と参加者との間で活発な質疑・応答がなされ、討論や情報交換はG館のレストラン「文泉」での懇親会まで続いた。

2日目は3人の先生方の補足講演があり、その後に総括討論が行われた。その内容は「セキュリティ技術の社会的活用にあたって懸念される問題点と取り組まれる課題」が議論された。具体的には、セキュリティ技術が機能しなかった場合の損害の責任主体をどうするのかという問題、さらに技術でカバーできない部分をいかにして社会的な制度によっておぎなっていくかという課題とともに、不可避免的に存在する事故の可能性、事故を引き起こす人的要因の問題といったテーマが議論された。

最後の田中一先生の締めくくりのご挨拶では、セキュリティ技術というものを生物の長い進化の過程でうみだされた社会的な免疫系として意義づけることはできないか、という指摘がな

された。今回のシンポジウムは本学部教員の今後の情報教育・情報研究に資するところ大であったと思われる。ご多忙中のところ、本学部のためにご足労頂き、有益な講演と討論をして下さった三人の先生方に厚く御礼申し上げます。

■プログラム内容

第1日目

挨拶

札幌学院大学社会情報学部長

齊藤たつき

講演1 『情報セキュリティの動向について—暗号アルゴリズム、セキュリティプロトコル、標準化動向—』

NTT 情報流通プラットフォーム研究所主幹研究員

森田 光

講演2 『大学・企業におけるセキュリティ管理の実際』

大阪市立大学学術情報総合センター教授

中野秀男

講演3 『筆者認識技術の現状』

名古屋市立大学芸術工学部教授 吉村ミツ

第2日目

補足講演および総括討論 森田 光

中野秀男

吉村ミツ

司会・記録

札幌学院大学社会情報学部

秋山雅彦 早田和弥 小内純子

佐藤和洋 高橋 徹